

Patent Abstracts of Japan

PUBLICATION NUMBER : 10167356
PUBLICATION DATE : 23-06-98

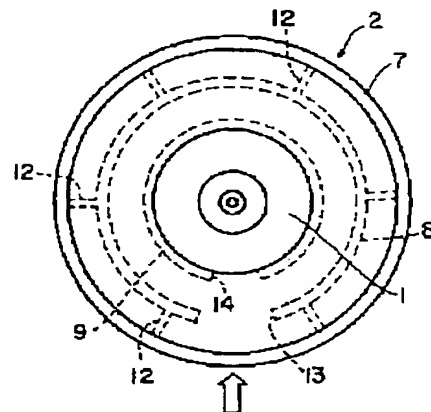
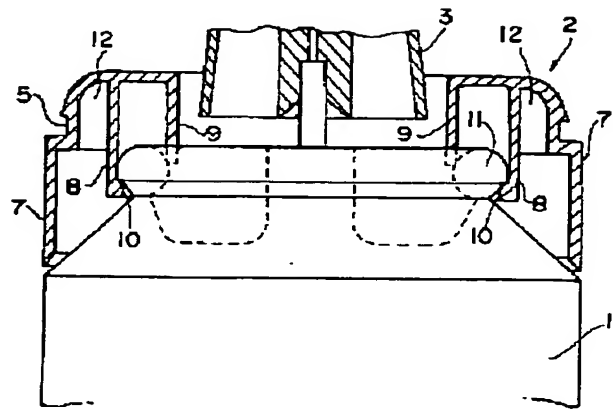
APPLICATION DATE : 06-12-96
APPLICATION NUMBER : 08326347

APPLICANT : KAO CORP;

INVENTOR : YAMAMOTO YOSHIKATSU;

INT.CL. : B65D 83/14 B05B 9/04 B65D 25/20

TITLE : SHOULDER COVER FOR CONTAINER
AND CONTAINER



ABSTRACT : PROBLEM TO BE SOLVED: To facilitate removal of a shoulder cover from a container main body when it is disposed of, by providing a first annular wall and a second annular wall positioned inside the first annular wall and fittable to the container main body and forming a notch in the second annular wall in the case where a shoulder cover is provided to an aerosol can, etc.

SOLUTION: This shoulder cover 2 functioning as a pedestal for fixing a cap removably with respect to a container main body 1 has a first annular wall 7 forming an outer peripheral face of the cover 2 and a second and a third annular walls 8, 9, both being positioned inside the first annular wall 7, and protrusions 10 formed at a lower end of an inner peripheral face of the second annular wall 8 and extending along its peripheral direction are engaged with ribs 11 positioned at upper ends of the main body 1. Further, notches 13, 14 extending along the peripheral direction are formed in the second and third annular walls 8, 9, respectively. In the case of demounting the shoulder cover 2 from the container main body 1, a nozzle 3 is removed from the main body 1 before deforming the second annular wall 8 by applying a force to the portions of the notches 13, 14, and the engaged state between each protrusion 10 and each rib 11 is disengaged to separate the cover 2 from the main body 1.

COPYRIGHT: (C)1998,JPO

THIS PAGE BLANK (USPTO)

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平10-167356

(43) 公開日 平成10年(1998) 6月23日

(51) Int.Cl.⁶

識別記号

F I

B 6 5 D 83/14

B 6 5 D 83/14

F

B 0 5 B 9/04

B 0 5 B 9/04

B 6 5 D 25/20

B 6 5 D 25/20

N

審査請求 未請求 請求項の数12 O L (全 9 頁)

(21) 出願番号

特願平8-326347

(22) 出願日

平成8年(1996)12月6日

(71) 出願人

000000918

花王株式会社

東京都中央区日本橋茅場町1丁目14番10号

(72) 発明者

山本 芳功

東京都墨田区文花2-1-3 花王株式会社
社研究所内

(74) 代理人

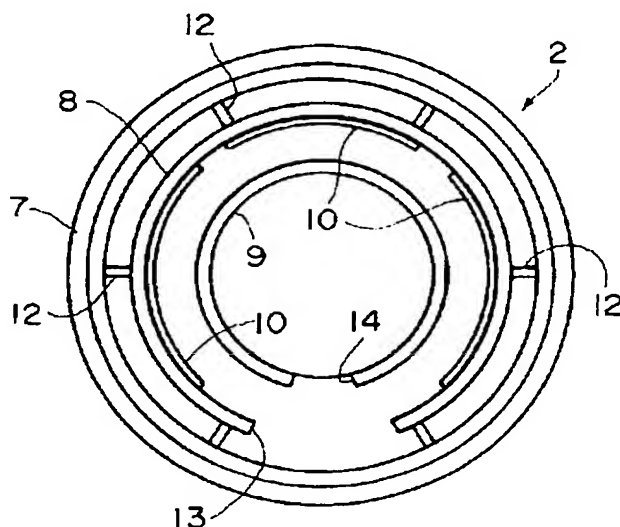
弁理士 宇高 克己

(54) 【発明の名称】 容器の肩カバー及び容器

(57) 【要約】

【課題】 樹脂部分と金属部分とに簡単に分解できる容器を提供することである。特に、容器本体からの取り外しが容易な容器の肩カバーを提供することである。

【解決手段】 連続した第1の環状壁部と、この第1の環状壁部の内側に存在し、下端側が容器本体の一部と嵌合する第2の環状壁部とを具備し、前記第2の環状壁部に切欠きが形成されてなる容器の肩カバー。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 連続した第1の環状壁部と、

この第1の環状壁部の内側に存在し、下端側が容器本体の一部と嵌合する第2の環状壁部とを具備し、前記第2の環状壁部に切欠きが形成されてなることを特徴とする容器の肩カバー。

【請求項2】 連続した第1の環状壁部と、

この第1の環状壁部の内側に存在し、下端側が容器本体の一部と嵌合する第2の環状壁部と、
この第2の環状壁部の内側に存在し、下端側が容器本体の一部に圧着する第3の環状壁部とを具備し、
前記第2の環状壁部に切欠きが形成されてなることを特徴とする容器の肩カバー。

【請求項3】 連続した第1の環状壁部と、

この第1の環状壁部の内側に存在し、下端側が容器本体の一部と嵌合する第2の環状壁部と、
この第2の環状壁部の内側に存在し、下端側が容器本体の一部に圧着する第3の環状壁部とを具備し、
前記第2の環状壁部に切欠きが形成されてなるとともに、
前記第3の環状壁部における、前記第2の環状壁部の切欠きに対応した部分に切欠きが形成されてなることを特徴とする容器の肩カバー。

【請求項4】 連続した第1の環状壁部と、

この第1の環状壁部の内側に存在し、下端側が容器本体の一部と嵌合する第2の環状壁部と、
前記第1の環状壁部と前記第2の環状壁部とをつなぐリブとを具備し、
前記第2の環状壁部における前記リブ同士の間の部分に切欠きが形成されてなることを特徴とする容器の肩カバー。

【請求項5】 連続した第1の環状壁部と、

この第1の環状壁部の内側に存在し、下端側が容器本体の一部と嵌合する第2の環状壁部と、
この第2の環状壁部の内側に存在し、下端側が容器本体の一部に圧着する第3の環状壁部と、
前記第1の環状壁部と前記第2の環状壁部とをつなぐリブとを具備し、
前記第2の環状壁部における前記リブ同士の間の部分に切欠きが形成されてなることを特徴とする容器の肩カバー。

【請求項6】 連続した第1の環状壁部と、

この第1の環状壁部の内側に存在し、下端側が容器本体の一部と嵌合する第2の環状壁部と、
この第2の環状壁部の内側に存在し、下端側が容器本体の一部に圧着する第3の環状壁部と、
前記第1の環状壁部と前記第2の環状壁部とをつなぐリブとを具備し、
前記第2の環状壁部における前記リブ同士の間の部分に切欠きが形成されてなるとともに、

前記第3の環状壁部における、前記第2の環状壁部の切欠きに対応した部分に切欠きが形成されてなることを特徴とする容器の肩カバー。

【請求項7】 連続した第1の環状壁部と、

この第1の環状壁部の内側に存在し、下端側が容器本体の一部と嵌合する第2の環状壁部と、
この第2の環状壁部の内側に存在し、下端側が容器本体の一部に圧着する第3の環状壁部と、
前記第1の環状壁部と前記第2の環状壁部とをつなぐ第1のリブと、
この第1のリブに対応して設けられた、前記第2の環状壁部と前記第3の環状壁部とをつなぐ第2のリブとを具備し、
前記第2の環状壁部における前記第1のリブ同士の間の部分に切欠きが形成されてなることを特徴とする容器の肩カバー。

【請求項8】 連続した第1の環状壁部と、

この第1の環状壁部の内側に存在し、下端側が容器本体の一部と嵌合する第2の環状壁部と、
この第2の環状壁部の内側に存在し、下端側が容器本体の一部に圧着する第3の環状壁部と、
前記第1の環状壁部と前記第2の環状壁部とをつなぐ第1のリブと、
この第1のリブに対応して設けられた、前記第2の環状壁部と前記第3の環状壁部とをつなぐ第2のリブとを具備し、
前記第2の環状壁部における前記第1のリブ同士の間の部分に切欠きが形成されてなるとともに、
前記第3の環状壁部における、前記第2の環状壁部の切欠きに対応した部分に切欠きが形成されてなることを特徴とする容器の肩カバー。

【請求項9】 第2の環状壁部及び／又は第3の環状壁部の切欠きは、前記第2の環状壁部及び／又は第3の環状壁部の周方向に沿ったものであることを特徴とする請求項1～請求項8いずれかに記載の容器の肩カバー。

【請求項10】 第2の環状壁部及び／又は第3の環状壁部の切欠きは、前記第2の環状壁部及び／又は第3の環状壁部の複数の位置に形成されてなることを特徴とする請求項1～請求項9いずれかに記載の容器の肩カバー。

【請求項11】 第1の環状壁部の外周面において第2の環状壁部及び／又は第3の環状壁部の切欠きに対応する位置に、前記切欠きの存在を示す目印を設けたことを特徴とする請求項1～請求項10いずれかに記載の容器の肩カバー。

【請求項12】 請求項1～請求項11いずれかに記載の肩カバーが、その第2の環状壁部を容器本体の一部に嵌合させることで、前記容器本体に取り付けられてなることを特徴とする容器。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、例えばエアゾール缶などの肩カバーに関する。

【0002】

【発明が解決しようとする課題】LPガスなどの圧力で内部に充填された剤を噴射させるよう構成されたエアゾール缶には、樹脂製の肩カバーが取り付けられることが多い。この肩カバーは、押しボタンを兼ねたノズルの上下動をガイドするほか、製品の外観を向上させるといった装飾的な役割を果している。

【0003】ところで、現在、空になったエアゾール缶は、そのまま不燃物として捨てられている。しかし、今後、ゴミの分別回収は更に厳しく実施されるようになる。したがって、エアゾール缶を捨てる際には、それを樹脂部分と金属部分とに分離することが、つまり樹脂製の肩カバーを金属製のエアゾール缶から取り外した上で廃棄することが望まれる。

【0004】ところが、肩カバーは、エアゾール缶に対して強固に結合されているので、その取り外しには多大な労力を必要とする。更に詳しく言うと、肩カバーは、その環状壁部の内周面に周方向に沿って形成した凸部をエアゾール缶上端のリムに掛止させることで、容易には抜け取れないようエアゾール缶に固定されている。このため、肩カバーを素手で取り外すことは不可能であり、器具を用いた手間の掛かる処理が必要となる。

【0005】したがって、本発明が解決しようとする課題は、樹脂部分と金属部分とに簡単に分解できる容器を提供することである。特に、容器本体からの取り外しが容易な容器の肩カバーを提供することである。

【0006】

【課題を解決するための手段】上記の課題は、連続した第1の環状壁部と、この第1の環状壁部の内側に存在し、下端側が容器本体の一部と嵌合する第2の環状壁部とを具備し、前記第2の環状壁部に切欠きが形成されてなることを特徴とする容器の肩カバーによって解決される。

【0007】また、連続した第1の環状壁部と、この第1の環状壁部の内側に存在し、下端側が容器本体の一部と嵌合する第2の環状壁部と、この第2の環状壁部の内側に存在し、下端側が容器本体の一部に圧着する第3の環状壁部とを具備し、前記第2の環状壁部に切欠きが形成されてなることを特徴とする容器の肩カバーによって解決される。

【0008】また、連続した第1の環状壁部と、この第1の環状壁部の内側に存在し、下端側が容器本体の一部と嵌合する第2の環状壁部と、この第2の環状壁部の内側に存在し、下端側が容器本体の一部に圧着する第3の環状壁部とを具備し、前記第2の環状壁部に切欠きが形成されてなるとともに、前記第3の環状壁部における、前記第2の環状壁部の切欠きに対応した部分に切欠きが

形成されてなることを特徴とする容器の肩カバーによって解決される。

【0009】また、連続した第1の環状壁部と、この第1の環状壁部の内側に存在し、下端側が容器本体の一部と嵌合する第2の環状壁部と、前記第1の環状壁部と前記第2の環状壁部とをつなぐリブとを具備し、前記第2の環状壁部における前記リブ同士の間の部分に切欠きが形成されてなることを特徴とする容器の肩カバーによって解決される。

【0010】また、連続した第1の環状壁部と、この第1の環状壁部の内側に存在し、下端側が容器本体の一部と嵌合する第2の環状壁部と、この第2の環状壁部の内側に存在し、下端側が容器本体の一部に圧着する第3の環状壁部と、前記第1の環状壁部と前記第2の環状壁部とをつなぐリブとを具備し、前記第2の環状壁部における前記リブ同士の間の部分に切欠きが形成されてなることを特徴とする容器の肩カバーによって解決される。

【0011】また、連続した第1の環状壁部と、この第1の環状壁部の内側に存在し、下端側が容器本体の一部と嵌合する第2の環状壁部と、この第2の環状壁部の内側に存在し、下端側が容器本体の一部に圧着する第3の環状壁部と、前記第1の環状壁部と前記第2の環状壁部とをつなぐリブとを具備し、前記第2の環状壁部における前記リブ同士の間の部分に切欠きが形成されてなるとともに、前記第3の環状壁部における、前記第2の環状壁部の切欠きに対応した部分に切欠きが形成されてなることを特徴とする容器の肩カバーによって解決される。

【0012】また、連続した第1の環状壁部と、この第1の環状壁部の内側に存在し、下端側が容器本体の一部と嵌合する第2の環状壁部と、この第2の環状壁部の内側に存在し、下端側が容器本体の一部に圧着する第3の環状壁部と、前記第1の環状壁部と前記第2の環状壁部とをつなぐ第1のリブと、この第1のリブに対応して設けられた、前記第2の環状壁部と前記第3の環状壁部とをつなぐ第2のリブとを具備し、前記第2の環状壁部における前記第1のリブ同士の間の部分に切欠きが形成されてなることを特徴とする容器の肩カバーによって解決される。

【0013】また、連続した第1の環状壁部と、この第1の環状壁部の内側に存在し、下端側が容器本体の一部と嵌合する第2の環状壁部と、この第2の環状壁部の内側に存在し、下端側が容器本体の一部に圧着する第3の環状壁部と、前記第1の環状壁部と前記第2の環状壁部とをつなぐ第1のリブと、この第1のリブに対応して設けられた、前記第2の環状壁部と前記第3の環状壁部とをつなぐ第2のリブとを具備し、前記第2の環状壁部における前記第1のリブ同士の間の部分に切欠きが形成されてなるとともに、前記第3の環状壁部における、前記第2の環状壁部の切欠きに対応した部分に切欠きが形成されてなることを特徴とする容器の肩カバーによって解

決される。

【0014】更には、上記の肩カバーが、その第2の環状壁部を容器本体の一部に嵌合させることで、前記容器本体に取り付けられてなることを特徴とする容器によって解決される。なお、上記の肩カバーにおける第2の環状壁部及び／又は第3の環状壁部の切欠きは、肩カバーの分離容易性を高めるため、第2の環状壁部及び／又は第3の環状壁部の周方向に沿ったものであることが、言い換えれば切欠きの周方向に沿った寸法を、同じく切欠きの環状壁部の高さ方向に沿った寸法よりも大きくしてなることが好ましい。

【0015】また、第2の環状壁部及び／又は第3の環状壁部の切欠きは、第2の環状壁部及び／又は第3の環状壁部の複数の位置に形成されてなることが好ましく、これによって肩カバーを分離させる際の操作が一層容易なものとなる。そして、押圧位置が一目で判るようにするため、第1の環状壁部の外周面における第2の環状壁部及び／又は第3の環状壁部の切欠きに対応する位置に、前記切欠きの存在を示す目印を設けておくことができる。目印を設ける具体的な手法としては、シールを張り付けたり、あるいは突起を第1の環状壁部の外周面に一体的に形成することが考えられる。

【0016】本発明の肩カバーは、上記のごとく構成されているので、それを容器本体から取り外す際には、肩カバー外周面における内部の切欠きに対応した位置を押圧すればよい。こうすることで、第2の環状壁部と容器本体との嵌合状態が解かれ、肩カバーは容器本体から容易に分離する。つまり、本発明の肩カバーは、指で外周面を押圧するだけの簡単な操作で容器本体から取り外すことができ、器具を用いた手間の掛かる作業は不要である。しかも、切欠きが形成されていない位置を押圧しても、第2の環状壁部は容器本体との嵌合が外れるようには変形しない。ゆえに、意図的に操作しない限り、肩カバーは容器本体から外れず、使用中、不意に肩カバーが脱落する恐れはない。そして、この肩カバーが容器本体に取り付けられてなる容器は、樹脂部分と金属部分とに簡単に分解できるから、分別回収を一層効果的に行え、リサイクル効率の向上が図れる。

【0017】

【発明の実施の形態】以下で、本発明の第1実施形態として説明する容器の肩カバーは、連続した第1の環状壁部と、この第1の環状壁部の内側に存在し、下端側が容器本体の一部と嵌合する第2の環状壁部と、この第2の環状壁部の内側に存在し、下端側が容器本体の一部に圧着する第3の環状壁部と、前記第1の環状壁部と前記第2の環状壁部とをつなぐリブとを具備し、前記第2の環状壁部における前記リブ同士の間の部分に切欠きが形成されてなるとともに、前記第3の環状壁部における、前記第2の環状壁部の切欠きに対応した部分に切欠きが形成されたものである。特に、第2の環状壁部の切欠き

は、第2の環状壁部の周方向に沿って形成されている。つまり、切欠きの周方向に沿った寸法を、同じく切欠きの環状壁部の高さ方向に沿った寸法よりも大きくしている。更に、本実施形態では、第1の環状壁部の外周面における第2の環状壁部及び第3の環状壁部の切欠きに対応する位置にこの切欠きの存在を示す目印を設けている。

【0018】また、以下で本発明の一実施形態として説明する容器は、上記の肩カバーが、その第2の環状壁部を容器本体（エアゾール缶）の上端部に嵌合させることで、前記容器本体に取り付けられてなるものである。図1～図6を用いて、上記本発明の第1実施形態を具体的に説明する。なお、図1は容器の斜視立体図、図2は容器の要部断面図、図3は肩カバーの底面図、図4は一部破断状態での肩カバーの正面図、図5及び図6は肩カバーを容器本体から取り外す過程を示す平面図及び斜視立体図である。

【0019】本実施形態の容器は、図1に示すごとく、金属製の容器本体（エアゾール缶）1と、この容器本体1の上端部に取り付けられた樹脂（特に、硬質あるいは比較的硬質な樹脂）製の肩カバー2とを備えてなる。肩カバー2は一体成形によって得られたもので、後述するごとく、容器本体1から簡単に分離できるよう、ある方向からの力に対してのみ変形可能に構成されている。また、肩カバー2は、押しボタンを兼ねたノズル3の上下動をガイドするよう機能するほか、製品の外観を良好なものとする役割を担っている。これに加えて、肩カバー2は、キャップ4を容器本体1に対して取り外し可能に固定するための台座としても機能する。なお、図1では詳しく図示していないが、肩カバー2の台座としての機能は、キャップ4の内周面下端に形成された環状の凸部が肩カバー外周面の環状凹部5と嵌合することで発揮される。これによって、キャップ4は、容器を逆にした程度では外れないよう肩カバー2に固定される。

【0020】肩カバー2の外周面には、シール6が張り付けられている。このシール6は、肩カバー2を容器本体1から分離させる際に力を加えるべき位置を示している。容器本体1には弁が内蔵されており、ノズル3を押し下げることで、この弁が開き、容器本体1の内部に充填された剤はノズル3の内部に送り込まれる。そして、ノズル3の開口3aから泡状あるいは霧状のものとなって吐出する。

【0021】続いて、肩カバー2の構造を詳しく説明する。肩カバー2は、図2に示すごとく、三重の環状壁部を有している。すなわち、最も外側にあって、肩カバー2の外周面を形成しているのが第1の環状壁部7であり、その内側には第2の環状壁部8が存在する。更に、この第2の環状壁部8の内側には、第3の環状壁部9が立設している。

【0022】これら三つの環状壁部のうち、第1の環状

壁部7の下端側は、容器本体1の形状に合わせるためテーパ状のものとなっている。第2の環状壁部8の内周面下端には、周方向に沿った凸部10が形成されている。この凸部10は容器本体1の上端に存在するリム11を掛止しており、これによって第2の環状壁部8は容器本体1の上端部に嵌合した状態となっている。なお、凸部10は連続したものであってもよいが、本実施形態では不連続体とした。

【0023】第3の環状壁部9は第2の環状壁部8よりも高さ寸法が小さく、その下端部はリム11の縁部に圧着している。このため、肩カバー2のガタつきは起きない。第1の環状壁部7と第2の環状壁部8との間には、図3から判るように、ほぼ60°間隔で計6個のリブ12が設けられている。肩カバー2の中心から放射状に、すなわち半径方向に延びるこれらのリブ12は、第1の環状壁部7及び第2の環状壁部8と一体のものであって、肩カバー2の強度を高める役割のほか、第1の環状壁部7に加えられた力を第2の環状壁部8に伝達する役割を果たす。

【0024】第2の環状壁部8には、図3に加えて図4からも判るように、周方向に沿った切欠き13が形成されている。この切欠き13の周方向に沿った寸法は、角度にして、15°～45°程度のものである。一方、切欠き13における第2の環状壁部8の高さ方向に沿った寸法は、第2の環状壁部8自身の高さ寸法に等しい。つまり、切欠き13は、第2の環状壁部8の一部を周方向に沿って完全に切り取ったかのような構造を有している。したがって、第2の環状壁部8は、実際には略C字状のものとなっている。なお、切欠き13における第2の環状壁部8の高さ方向に沿った寸法は、第2の環状壁部8自身の高さ寸法の半分以上であればよい。

【0025】また、第3の環状壁部9についても、図3及び図4から判るように、切欠き14が設けられている。この切欠き14は、第2の環状壁部8の切欠き13に対応した位置にあり、その周方向に沿った寸法は、角度にして、15°～45°程度のものである。一方、切欠き14における第3の環状壁部9の高さ方向に沿った寸法は、第3の環状壁部9自身の高さ寸法に等しい。つまり、この切欠き14についても、第3の環状壁部9の一部を完全に切り取ったかのような構造となっており、したがって第3の環状壁部9も、第2の環状壁部8と同様、略C字状のものである。なお、切欠き14における第3の環状壁部9の高さ方向に沿った寸法は、第3の環状壁部9自身の高さ寸法の半分以上であればよい。

【0026】上記構成の肩カバー2は、次のような手順で容器本体1から取り外される。まず、肩カバー2の取り外しに先行して、ノズル3を容器本体1から分離させる。これはノズル3の頭部を指で摘んで上方に引っ張るだけでよく、この操作によってノズル3は簡単に容器本体1から外れる。ノズル3を容器本体1から外したなら

ば、図5に示すごとく、切欠き13、14が形成された位置に矢印で示すような力を加える。この操作は、例えば容器本体1を四指で握り、親指でその位置を圧着することにより行える。なお、切欠き13、14の存在する位置は、目印となるシール6によって一目で認識できる。

【0027】こうした操作によって、肩カバー2の外周面における特定の点、すなわち切欠き13、14に対応した点に、ある一定以上の力が作用すると、容器本体1の上端部に嵌合する第2の環状壁部8が変形する。更に詳しく言うと、加えられた力により、第2の環状壁部8は切欠き13を中心として左右に押し広げられる。これによって、第2の環状壁部8の凸部10と、容器本体1のリブ11との掛止状態が解かれ、その結果、肩カバー2は、図6に示すごとく、容器本体1から分離できるようになる。

【0028】このように本実施形態の肩カバーは、器具を用いず、素手で容器本体から取り外すことが可能であり、容器を樹脂部分と金属部分とに容易に分解できる。したがって、分別回収を一層効果的に行え、リサイクル効率が向上する。しかも、目印の部分を用意的に押圧しなければ肩カバーが容器本体から外れることはないの、通常の使用に際しては、なんら支障がない。

【0029】なお、本実施形態では、切欠きが存在することを示す目印としてシールを用いたが、突起を肩カバーの外周面に一体的に形成するなどしてもよい。続いて、本発明の第2実施形態を説明する。この第2実施形態の肩カバーも、第1実施形態と同様、連続した第1の環状壁部と、この第1の環状壁部の内側に存在し、下端側が容器本体の上端部と嵌合する第2の環状壁部と、この第2の環状壁部の内側に存在し、下端側が容器本体の上端部に圧着する第3の環状壁部と、前記第1の環状壁部と前記第2の環状壁部とをつなぐリブとを具備し、前記第2の環状壁部における前記リブ同士の間の部分に切欠きが形成されてなるとともに、前記第3の環状壁部における、前記第2の環状壁部の切欠きに対応した部分に切欠きが形成されたものである。但し、第2の環状壁部及び第3の環状壁部の切欠きを複数の位置に形成している点が、上記第1実施形態と相違する。

【0030】図7を用いて、第2実施形態の肩カバーの構造を更に詳しく説明する。なお、本実施形態の肩カバーの外観は第1実施形態のものと同一であり、また、その基本構造も要部を除いて第1実施形態とほぼ同じである。更に、第2実施形態の肩カバーについても第1実施形態と同様にして容器本体に取り付けられている。したがって、こうした点についての説明は省略し、以下では、肩カバーの底面を示す図7のみを用いて、第1実施形態との相違点を中心に説明する。

【0031】第2実施形態の肩カバーも、図7に示すごとく、三重の環状壁部を有する。すなわち、最も外側に

存在する第1の環状壁部21と、この第1の環状壁部21の内側にあつて、容器本体のリムと嵌合する第2の環状壁部22と、更に、この第2の環状壁部22の内側にあつて、リムの縁部に圧着する第3の環状壁部23とを備える。

【0032】第1の環状壁部21と第2の環状壁部22との間には、ほぼ60°間隔で計6個のリブ24が設けられている。これらのリブ24も第1実施形態のものと同等の役割を果たす。第2の環状壁部22には、その周方向に沿った切欠き25が計3か所に形成されている。切欠き25の周方向に沿った寸法は、角度にして、15°〜45°程度のものである。一方、切欠き25における第2の環状壁部22の高さ方向に沿った寸法は、第2の環状壁部22自身の高さ寸法に等しい（第2の環状壁部22自身の高さ寸法の半分以上であればよい）。

【0033】また、第3の環状壁部23についても、切欠き26が計3か所に設けられている。この切欠き26は、第2の環状壁部22の切欠き25に対応した位置に存在する。切欠き26の周方向に沿った寸法は、角度にして、15°〜45°程度のものである。一方、切欠き26における第3の環状壁部23の高さ方向に沿った寸法は、第3の環状壁部23自身の高さ寸法に等しい（第3の環状壁部23自身の高さ寸法の半分以上であればよい）。

【0034】上記構成の肩カバーでも、第1実施形態のものと同様、切欠き25、26が存在する位置にシールが張り付けられており、この位置を押圧することで簡単に肩カバーを容器本体から分離させることができる。特に、本実施形態のごとく構成した場合、いったん容器を把持したならば、それを持ち替えなくともシールが張り付けられた位置に力を加えることができる。よって、操作が一層容易である。

【0035】続いて、本発明の第3実施形態を説明する。第3実施形態の肩カバーは、連続した第1の環状壁部と、この第1の環状壁部の内側に存在し、下端側が容器本体の一部と嵌合する第2の環状壁部と、前記第1の環状壁部と前記第2の環状壁部とをつなぐリブとを具備し、前記第2の環状壁部における前記リブ同士の間の部分に切欠きが形成されたものである。

【0036】図8を用いて、第3実施形態の肩カバーの構造を更に詳しく説明する。なお、本実施形態の肩カバーの外観は第1実施形態のものと同じであり、また、その基本構造も要部を除いて第1実施形態とほぼ同じである。更に、第3実施形態の肩カバーにあつても第1実施形態と同様にして容器本体に取り付けられている。したがって、こうした点についての説明は省略し、以下では、肩カバーの底面を示す図8のみを用いて、第1実施形態との相違点を中心に説明する。

【0037】本実施形態の肩カバーは、図8に示すごとく、二重の環状壁部を有する。すなわち、肩カバーの外

周面を形成する第1の環状壁部31と、この第1の環状壁部31の内側にあつて容器本体のリムと嵌合する第2の環状壁部32とを備える。第1の環状壁部31と第2の環状壁部32との間には、ほぼ60°間隔で計6個のリブ33が設けられている。また、第2の環状壁部32におけるリブ33同士の間の部分には、周方向に沿った切欠き34が形成されている。

【0038】上記構成の肩カバーにあつても、第1の環状壁部31の外周面における切欠き34に対応した位置には目印が設けられており、その位置を押圧することで、簡単に肩カバーを容器本体から分離させることができる。続いて、本発明の第4実施形態を説明する。第4実施形態の肩カバーは、連続した第1の環状壁部と、この第1の環状壁部の内側に存在し、下端側が容器本体の一部と嵌合する第2の環状壁部と、この第2の環状壁部の内側に存在し、下端側が容器本体の一部に圧着する第3の環状壁部と、前記第1の環状壁部と前記第2の環状壁部とをつなぐ第1のリブと、この第1のリブに対応して設けられた、前記第2の環状壁部と前記第3の環状壁部とをつなぐ第2のリブとを具備し、前記第2の環状壁部における前記第1のリブ同士の間の部分に切欠きが形成されたものである。

【0039】図9を用いて、この第4実施形態の肩カバーの構造を更に詳しく説明する。なお、本実施形態の肩カバーにあつても、その外観は第1実施形態のものと同じであり、また、その基本構造も要部を除いて第1実施形態とほとんど同じである。更に、この第4実施形態の肩カバーにあつても、第1実施形態と同様にして容器本体に取り付けられている。したがって、こうした点についての説明は省略し、以下では肩カバーの底面を示す図9のみを用いて、第1実施形態との相違点を中心に説明する。

【0040】本実施形態の肩カバーは、図9に示すごとく、三重の環状壁部を有する。すなわち、最も外側に存在する第1の環状壁部41と、この第1の環状壁部41の内側にあつて、容器本体のリムと嵌合する第2の環状壁部42と、更に、この第2の環状壁部42の内側にあつて、リムの縁部に圧着する第3の環状壁部43とを備える。

【0041】第1の環状壁部41と第2の環状壁部42との間には、ほぼ60°間隔で第1のリブ44が計6個設けられている。また、第2の環状壁部42と第3の環状壁部43との間には、第1のリブ44に対応して、ほぼ60°間隔で第2のリブ45が計6個設けられている。更に、本実施形態の肩カバーは、第2の環状壁部42におけるリブ44同士の間の部分に、周方向に沿った切欠き46が形成されている。

【0042】上記構成の肩カバーにあつても、第1の環状壁部41の外周面における切欠き46に対応した位置には目印が設けられており、その位置を押圧すること

で、簡単に肩カバーを容器本体から分離させることができる。続いて、本発明の第5実施形態を説明する。この第5実施形態の肩カバーは、連続した第1の環状壁部と、この第1の環状壁部の内側に存在し、下端側が容器本体の一部と嵌合する第2の環状壁部と、この第2の環状壁部の内側に存在し、下端側が容器本体の一部に圧着する第3の環状壁部と、前記第1の環状壁部と前記第2の環状壁部とをつなぐ第1のリブと、この第1のリブに対応して設けられた、前記第2の環状壁部と前記第3の環状壁部とをつなぐ第2のリブとを具備し、前記第2の環状壁部における前記第1のリブ同士の間部分に切欠きが形成されてなるとともに、前記第3の環状壁部における、前記第2の環状壁部の切欠きに対応した部分に切欠きが形成されている。

【0043】図10を用いて、この第5実施形態の肩カバーの構造を更に詳しく説明する。なお、本実施形態の肩カバーにあっても、その外観は第1実施形態のものと同じであり、また、その基本構造も要部を除いて第1実施形態とほぼ同じである。更に、この第5実施形態の肩カバーも、第1実施形態と同様にして容器本体に取り付けられている。したがって、こうした点についての説明は省略し、以下では肩カバーの底面を示す図10のみを用いて、第1実施形態との相違点を中心に説明する。

【0044】本実施形態の肩カバーも、図10に示すごとく、三重の環状壁部を有する。すなわち、最も外側に存在する第1の環状壁部51と、この第1の環状壁部51の内側にあつて、容器本体のリムと嵌合する第2の環状壁部52と、更に、この第2の環状壁部52の内側にあつて、リムの縁部に圧着する第3の環状壁部53とを備える。

【0045】第1の環状壁部51と第2の環状壁部52との間には、ほぼ60°間隔で第1のリブ54が計6個設けられている。また、第2の環状壁部52と第3の環状壁部53との間には、第1のリブ54に対応して、ほぼ60°間隔で第2のリブ55が計6個設けられている。そして、本実施形態の肩カバーでは、第2の環状壁部52におけるリブ54同士の間部分には周方向に沿

った切欠き56を、更に第3の環状壁部53における切欠き56に対応した部分には切欠き57を形成している。

【0046】上記構成の肩カバーにあつても、第1の環状壁部51の外周面における切欠き56、57に対応した位置には目印が設けられており、その位置を押圧することで、簡単に肩カバーを容器本体から分離させることができる。

【0047】

【発明の効果】本発明によれば、肩カバーを容器本体から容易に取り外すことができ、容器を簡単に樹脂部分と金属部分とに分解できる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明に係る容器の斜視立体図

【図2】本発明に係る容器の要部断面図

【図3】本発明に係る肩カバー（第1実施形態）の底面図

【図4】一部破断状態での肩カバー（第1実施形態）の正面図

【図5】肩カバー（第1実施形態）を容器本体から取り外す過程を示す平面図

【図6】肩カバー（第1実施形態）を容器本体から取り外す過程を示す斜視立体図

【図7】肩カバー（第2実施形態）の底面図

【図8】肩カバー（第3実施形態）の底面図

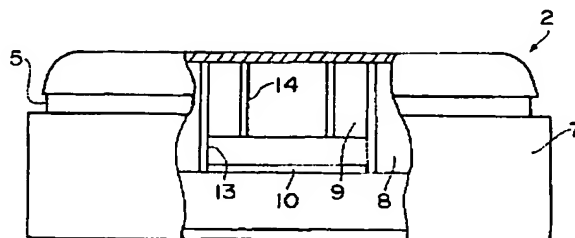
【図9】肩カバー（第4実施形態）の底面図

【図10】肩カバー（第5実施形態）の底面図

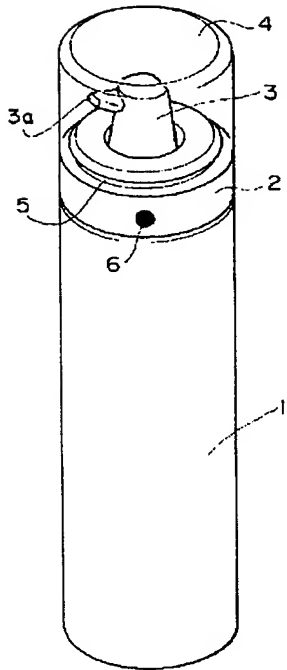
【符号の説明】

1	容器本体
2	肩カバー
6	シール（目印）
7	第1の環状壁部
8	第2の環状壁部
9	第3の環状壁部
12	リブ
13、14	切欠き

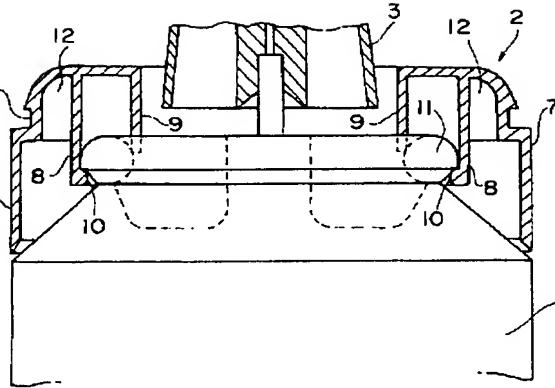
【図4】



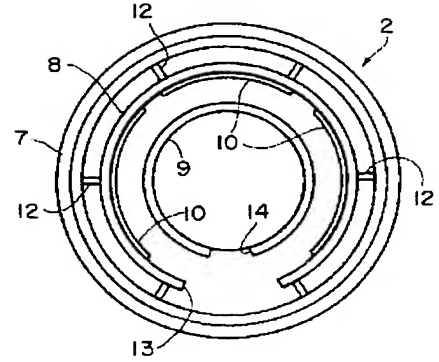
【図1】



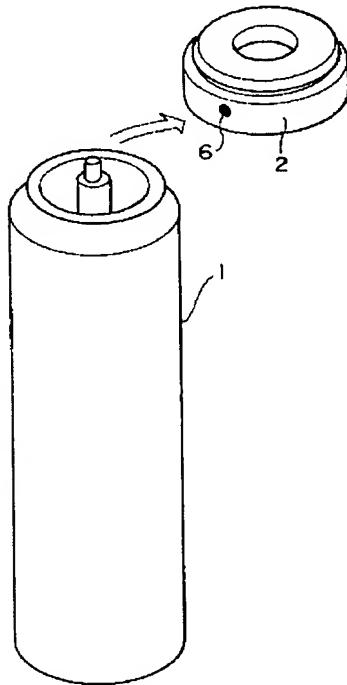
【図2】



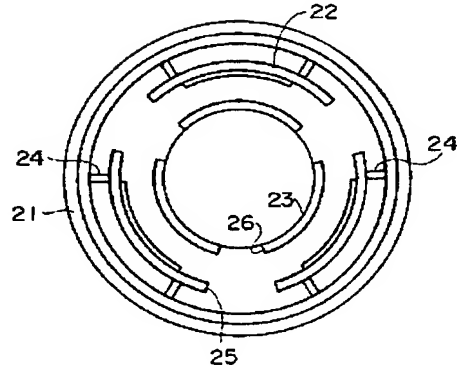
【図3】



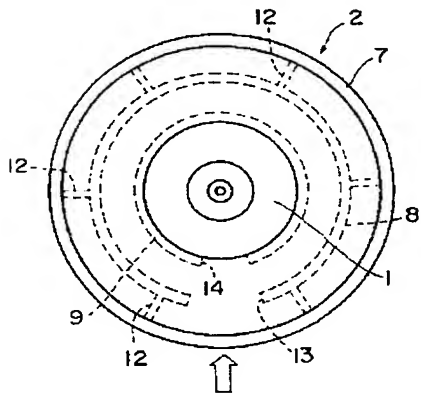
【図6】



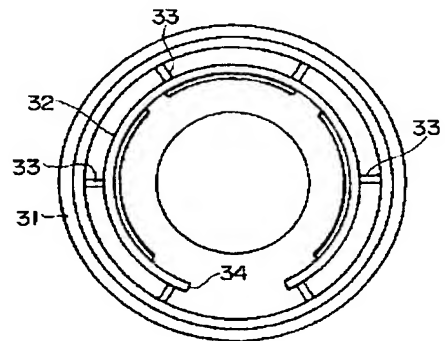
【図7】



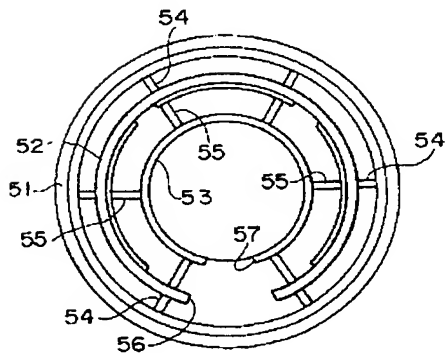
【図5】



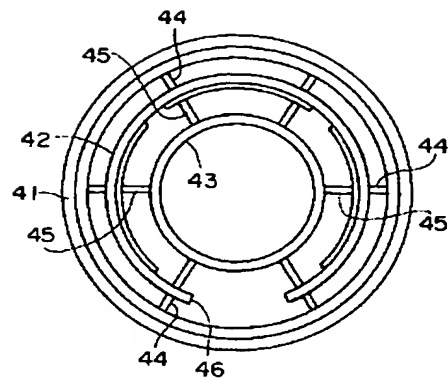
【図8】



【図10】



【図9】



THIS PAGE BLANK (USPTO)